

研究報告書第38号

G11-02

進路を考えることができる能力の育成に関する研究(1)

— 中学校における進路指導 —

1986・3

山形県教育センター

1986年3月刊

進路を考えることができる能力の育成に関する研究(1)

— 中学校における進路指導 —

山形県教育センター

目 次

- I 研究の目的と趣旨
 - 1 研究の目的
 - 2 研究の趣旨
- II 研究の手順と調査の方法
 - 1 研究の手順
 - 2 調査の方法
- III 研究の内容
 - 1 進路を考えることができる能力の育成と進路指導
 - ◎進路指導の構造
 - ◎職業的発達段階と進路指導のねらい
 - ◎学級指導における進路指導の年間指導計画(例)
 - 2 調査結果から
 - (1) 自己理解について
 - (2) 職業理解について
 - (3) 人生設計について
 - (4) 進路を選択することができる能力について
 - (5) 進路に関する悩み・学習について
 - (6) 進路指導の取り組みについて
- IV 研究のまとめとこれからの課題
 - 1 研究のまとめ
 - (1) 進路を選択することができる能力
 - (2) 進路に関する悩み・学習意欲
 - (3) 進路に関する学習経験等と進路を考えることができる能力の発達との関係
 - (4) 学級指導における進路指導
 - 2 研究のこれからの課題

研究の概要

1 研究の目的

本県の中学校における進路に関する実態を把握し、進路指導の問題点を明らかにして、その改善の方策を提言する。

2 研究の方法

進路に関する実態を把握するために、下記(1)～(3)の調査を質問紙法により行う。結果を分析して、進路指導の問題点を明らかにする。その改善の方策について考察し、提言する。

- (1) 生徒を対象とした調査 : 進路に関する学習経験等や悩みなどについての調査
- (2) 教師(学級担任)を対象とした調査 : 学級指導における進路指導の内容についての調査
- (3) 進路指導主事を対象とした調査 : 進路指導の取り組みの状況等についての調査

3 研究の内容と結果 —— 本県の中学校における進路に関する実態 ——

(1) 進路を選択することができる能力

学年が進むにつれ自己および職業についての理解と人生設計が深まっていることは一応認められるが、生徒の多くが進路を自ら考え選択することができる能力を身につけるまでには至っていない。

(2) 進路に関する悩み・学習意欲

多くの生徒が成績のことや勉強のことが、がんばろうとする気持ちが見つからない意志の弱さについて悩んでいる。しかし、悩みをもちながらも、多くの生徒は、進路がはっきりしている、していないにかかわらず、自己理解、職業理解、人生設計のそれぞれについてかなりつよい学習意欲をもっている。

(3) 進路に関する学習経験等と進路を考えることができる能力の発達との関係

自己理解、職業理解、人生設計の各領域における学習経験等はそれぞれ進路を考えることができる能力を発達させる効果のあることが認められる。そして、その効果は、学習経験等が各領域にわたり調和がとれている場合に、特に著しい。

(4) 学級指導における進路指導

生徒の進路を考えることができる能力は学年が進むにつれて発達しており、進路指導の成果が一応あらわれている。しかし、学級指導における進路指導の各領域の内容について、教師が指導を行ったとする割合が落ちこんでいる部分がみられる。特に、性格検査などを活用する自己理解の指導や進路計画の作成・吟味とおした人生設計の指導が不足しているのがみられる。

以上のことから、中学校3年間で、進路を自ら考え選択することができる能力が十分身につけているとはいいがたいが、多くの生徒には、進路がはっきりしている、していないにかかわらず、進路について学習したいというかなりつよい意欲がみられるので、各領域にわたる調和のとれた進路指導を行うことによって、その能力が生徒に十分身につくようになることが期待できる。

4 研究のこれからの課題

進路指導の問題点を整理し、進路を考えることができる能力の育成をめざして、進路指導の改善の方策について考察し、提言する。

はしがき

義務教育を終えた中学生は、一人一人、自分のこれから進むべき道をめざし第一歩をふみ出す。いまは、9割をこす生徒が上級学校へ進学している。進学したのも、就職したのも、生徒たちはいま希望どおりの道をあゆんでいるであろうか。細心の指導をして、いつまでも子どもたちの将来を案じているのが教師というものである。

いうまでもなく、学校におけるさまざまな教育活動はそれぞれ重要な役割をもって行われている。なかでも、進路指導が生徒の自己実現をめざす生き方の指導であるとするならば、これはもっと重視されなければならないのではないかと。特別活動はもちろん、教科、道徳、その他の教育活動のあらゆる教育活動において、それは意図的・計画的・組織的に行われなければならないのではないかと。

物の豊かさのなかにあっても、いまの生徒たちのえがく将来の夢や希望はかならずしも豊かではない。そして、学習態度や生活態度の望ましくないものもみうけられる。これをそのまま進路指導の状況と結びつけて考えることは適当ではなからうが、進路にたいする目的意識がしっかり育っていない生徒が多いことがその原因の一つだとはいえないだろうか。人間の基本的な資質の一つとされる職業的資質を開眼し、それを自分の生き方と結びつけて考えることを、中学生の段階でぜひ経験させる必要があると思うのである。

山形県教育センターはこのような意味で、進路を自ら考えることができる中学生を育てるための指導に役立つように、「進路を考えることができる能力の育成に関する研究」と題して、2か年の継続研究に着手した。第1年次は、研究題目のもつ意味・内容について吟味し、これをもとにして、本県の中学校における進路に関する実態を把握するための調査を行った。この報告書はその調査結果を分析し、進路に関する問題点を浮きぼりにしたものである。内容的にはまだ不備な点もあるので、御意見を寄せられることをお願いするとともに、本書が各学校の進路指導の基礎資料として活用されることを願ってやまない。

この研究の調査に御協力をいただいた学校ならびに関係した方々に深く感謝の意を表す。

1986年3月

山形県教育センター所長事務取扱
鈴木 栄 三

研究担当者

指導主事	鴨田希六
〃	堀江謙太郎
〃	三沢洋一
〃	大泉芳光
〃	中鉢鉄太郎

目 次

I 研究の目的と趣旨	1
1 研究の目的	1
2 研究の趣旨	1
II 研究の手順と調査の方法	2
1 研究の手順	2
2 調査の方法	2
III 研究の内容	4
1 進路を考慮することができる能力の育成と進路指導	4
◎進路指導の構造	5
◎職業的発達段階と進路指導のねらい	7
◎学級指導における進路指導の年間指導計画(例)	9
2 調査結果から	11
(1) 自己理解について	11
(2) 職業理解について	15
(3) 人生設計について	21
(4) 進路を選択することができる能力について	27
(5) 進路に関する悩み・学習について	29
(6) 進路指導の取り組みについて	33
IV 研究のまとめとこれからの課題	36
1 研究のまとめ	36
(1) 進路を選択することができる能力	36
(2) 進路に関する悩み・学習意欲	36
(3) 進路に関する学習経験等と進路を考慮することができる能力の発達との関係	36
(4) 学級指導における進路指導	36
2 研究のこれからの課題	37

I 研究の目的と趣旨

1 研究の目的

本県の中学校における進路に関する実態を把握し、進路指導の問題点を明らかにして、その改善の方策を提言する。

2 研究の趣旨

(1) いま学校では、学習意欲がわからない、何のために学校に行くのかわからない、学校に行きたくない、進学した学校・学科に満足を感じられないなど、学校生活に生きがいを見いだせていない生徒が増えてきている。また、高等学校における中途退学者の数も年々増えており、本県においても見過すことのできない問題になってきている。

このように、学校生活に適応できない生徒が増えてきている背景には、生徒をとりまくさまざまな環境があり、そのために問題を一層複雑にしていることも否めない。しかし、この問題を解決するためには、学習指導、生徒指導など、学校教育の改善・充実をはかることがまず必要であると思われる。とりわけ、何を生きがいにして、将来どのような職業を選び、どのような生活をしたいのか、そのためにいま何をしなければならないのか、つまり“人生をいかに生きるか”ということについて考えさせる進路指導、これの改善・充実をはかることがなによりも重要になってきている。

(2) 本研究では、生徒に働くことや進学の意義について考えさせ、進路をはじめて選択させることになる中学校の進路指導をとりあげることとする。

学校教育法の中学校の目標の一つに、「社会に必要な職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと。」とある。

いま生徒は自分の将来をどれだけ考え、生活をしているであろうか。いつか社会に出て自立していかなければならないということを実感して、進路を真剣に考える機会をどれだけもっているだろうか。自分の能力、適正、興味・関心等を知り、それを職業と結びつけて考え、人生設計をしているであろうか。そして、進路を自ら考え選択することができる能力を身につけているであろうか。

進路指導についての研究は、生徒のこうした進路に関する実態を把握し、進路指導の問題点を解明することからはじめる必要があろう。

(3) 本研究では、「進路を考えることができる能力の育成」に視点を置き、進路指導の改善のための方策をさぐりたい。

1年次では、本県の中学校における進路に関する実態を把握し、2年次で、進路指導の問題点を明らかにして、その改善の方策を提言していきたい。

II 研究の手順と調査の方法

進路を自ら考えることができる能力をもつ生徒を育てるためには、学校が意図的に計画した進路指導を組織的に、しかも継続的にすすめていく必要がある。

たしかに、学校をとりまく環境はそれぞれ異なり、そこに学ぶ生徒もみな同じ条件のもとにあるとはかぎらないので、進路指導を一様にすすめていくことは適当ではないといえる。しかし、どの中学校にも共通した進路指導上の悩みや問題があるということも事実であろう。

本研究では、こうした共通の悩みや問題の解決に役立つように、どうすれば中学生に進路を自ら考えることができる能力を育成することができるかということに視点をおき、進路指導の改善のための方策をさぐっていく。

研究のすすめ方として、つぎの手順と方法がもっとも効率的でしかも妥当性が高いと考え、そのようにすすめることとした。

1 研究の手順

- (1) 「進路を考えることができる能力」とは何かということについて吟味し、それが育成されていく過程を進路指導の全体構造のなかに位置づける。
- (2) その能力を育成するために必要な教材について考察し、それをを用いて学級指導において進路指導を実施するときの順序性、授業時数等について検討する。
- (3) 学級指導における進路指導の各学年の年間指導計画(例)を作成する。
- (4) 進路に関する実態を把握するために質問紙法による調査を行うこととし、(1)~(3)にもとづき、調査項目および内容等について検討し、生徒、学級担任、進路指導主事を対象としたそれぞれの質問紙を作成する。
- (5) 調査を実施する。
- (6) 質問紙を回収し、集計を行う。
- (7) 調査結果を分析し、考察をくわえ、進路指導の問題点を明らかにする。
- (8) 問題点を解決するための方法について考察する。
- (9) 進路指導の改善のための方策をまとめ、提言する。

2 調査の方法

(1) 調査対象校と調査対象者の抽出

県内の全中学校から地域と学校規模を考慮して60校を無作為に抽出し、30校には生徒(各学年1学級ずつ無作為抽出)と進路指導主事を対象とした調査を行うこととし、他の30校には学級担任(昭和59年度に学級担任をした教員)と進路指導主事を対象とした調査を行う。

(2) 調査の種類とねらい

ア 生徒を対象とした調査

進路に関する三つの領域すなわち自己理解、職業理解、人生設計についての学習経験等や進路に関する悩みなどについて調査する。

イ 教師(学級担任)を対象とした調査

学級指導において実施した進路指導の内容について調査する。

ウ 進路指導主事を対象とした調査

学校の進路指導の取り組みの状況や進路指導主事としての考え方などについて調査する。

(3) 調査の内容

ア 生徒用

- ① 自己理解について
- ② 職業理解について
- ③ 人生設計について
- ④ 進路に関する悩みなどについて

イ 教師(学級担任)用

昭和59年度の1年間、学級指導において実施した進路指導の内容について

ウ 進路指導主事用

- ① 学校の進路指導の全体計画や各学年の年間指導計画の有無について
- ② 進路指導上の諸問題について
- ③ 親や保護者の進路に関する意識を高めるための手だてについて
- ④ 生徒の進路を選択することができる能力について

(4) 調査の実施の方法

質問紙法による調査とし、実施にあたっては質問用紙を各調査対象校へ直接郵送し、調査対象者が無記名で記入したのち、再び郵送で回収する。

(5) 調査の時期と期日

昭和60年10月28日(月)~11月9日(土)

(6) 調査対象人数と回答済み質問用紙の回収率

対象者	項目	調査対象人数	回収実数	回収率(%)
生徒		3,320	3,199	96.4
教師(学級担任)		222	212	95.5
進路指導主事		60	57	95.0

III 研究の内容

1 進路を考えることができる能力と進路指導

- (1) 進路指導はつぎのように表すことができる。

「生徒の個人資料，進路情報，啓発的経験および相談を通じて，生徒がみずから，将来の進路の選択，決定をし，就職または進学して，さらにその後の生活によりよく適応し，進歩する能力を伸長するように，教師が組織的，継続的に指導・援助する過程」^{*1}

また，進路指導をすすめるうえで大切なことは，「学校の教育活動全体を通じて，個々の生徒の能力・適性等の的確な把握に努め，その伸長を図るように指導するとともに，計画的，組織的に行うようにすること」^{*2}である。このことから，進路指導はその特徴を「いつでも，どこでも，だれでも」行う指導と表現されることがあるが，確かにそれは，生徒の発達段階に応じいつでも，教科・道徳・特別活動およびその他のあらゆる教育活動の場面をとらえ，すべての教師が行うべきものである。

- (2) このような定義のもとに，本研究では特に，「進路を考えることができる能力の育成」に着目して，進路指導の全体構造を表1のように考えた。

進路指導の内容は，この表にあるように，自己理解をはかる領域，職業理解をはかる領域，人生設計の領域の三つに分けることができよう。そして，指導が各領域にわたって調和的にしかも適切に行われれば，生徒は，進路を考えることができる能力が身につく，進路を自ら選択することができるようになると思われる。

表1では，あらゆる場面で行われる進路指導を整理・統合し，深化をはかる場として，学級指導・ホームルームの時間が重要な位置をしめていることに着目したい。

そこで，学級指導における進路指導の改善・充実をはかることが必要なこととなる。

- (3) 表1をもとに，進路指導のねらいと年間指導計画について検討した。

表2は，小学校，中学校，高等学校における進路指導のねらいを各領域ごとにまとめ，スーパー^{*3}の職業的発達段階に対応させたものである。表3はさらに表2をもとに作成した学級指導における進路指導の年間指導計画例である。

本研究の調査で使用する質問紙はこの表2，表3等に基づいて作成してある。

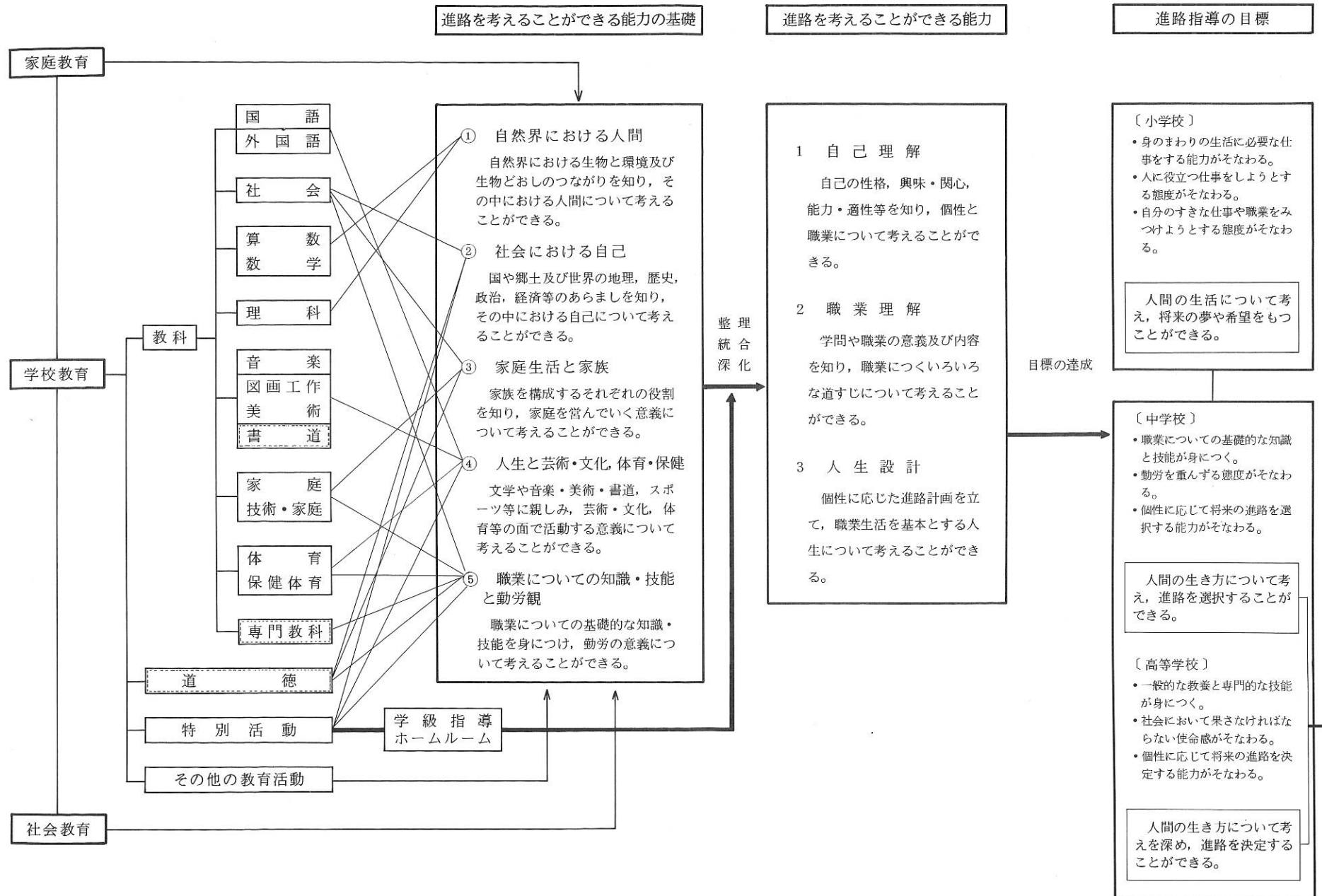
*1 進路指導の手引 — 中学校学級担任編 — (文部省) 第1章第2節 進路指導の理念

*2 中学校学習指導要領 第1章総則

*3 スーパー (Super, D・E アメリカ)

人の生涯にわたる職業生活に五つの区分設定を試み，同じ段階にある人はみな似たような発達課題に会い，かつ，似たような職業的行動をとるのが通例であるという職業的発達概念と理論を提唱した (1957)。

◎進路指導の構造



将来の進路の選
べる能力を伸長す

個々の生徒の能
組織的に行うよ
う、だれでも」行
教科・道徳・特
である。

る領域、人生設
こしかも適切に行
ることができるよ

して、学級指導・

5。

とめ、スーパー^{*3}
指導における進路

な発達課題に
論を提唱した

◎職業的発達段階と進路指導のねらい

職業的発達段階	年齢	14 15				24 25~44 45~64 65~					
		成長段階 自己概念が身近な主要人物との同一視を通して発達する段階				探索段階 自己概念の吟味や職業についての探索が学業・余暇活動を通して行われ、職業的役割が試行される段階				確立段階 自分に適した職業分野をみつけ、永続的なものになろうと努力する段階	維持段階 地位を維持することに集中し、新しい職業分野は開発されない段階
段階	年齢	4	10 11	12 13	14 15	17 18	21 22	24			
期		空想期 欲求にもつく空想が顕著で、空想の中での役割が職業希望の意識形成に重要な意味をもつ時期		興味期 興味が職業希望の主要な決定要因となる時期	能力期 職業希望の上で能力が重視され、仕事に必要な条件が考慮される時期	暫定期 欲求、興味、能力のほかは価値観、進学・就職の機会など、すべてをもとにして職業を考える時期	移行期 労働市場又は専門的訓練機関に入り、現実を直視しながら、自己概念を現実的なものにしていく時期	試行期 適当な仕事が見いだされ、生涯の職業としての試みがなされる時期			
学校	年齢	5 6	小学校 11 12		中学校 14 15		高等学校 17 18		21 22		
進路指導のねらい	自己理解	自分や友だちの長所・短所や性格などを表現することにより、人間は性格などにおいていろいろな特色をもっていることを知り、自己を主観的でなくみることができる。		人間の個性について考え、観察や検査等を通して自己のそれを客観的にとらえ、個性と職業を結びつけて考えることができる。		人間の個性について考えを深め、観察や検査等を通して自己のそれを客観的にとらえ、個性にあった職業について考えることができる。					
	職業理解	身のまわりの人の仕事を観察したり調べたりし、また勤労の体験などを通し、職業という概念をとらえることができる。		学問や職業の意義について考え、上級学校や職業に関する情報を収集・検討し、職業につくいろいろな道すじについて考えることができる。		学問や職業の意義について考えを深め、上級学校や職業に関する情報を収集・検討し、職業につく道すじを特定化して考えることができる。					
	人生設計	身のまわりの人や職業人の生活及び働く姿にふれ、自分も将来はそうなりたいたいという夢や希望をもつことができる。		職業生活を基本とした生き方について考え、進路を探索し、進路計画の作成を通して進路を選択することができる。		職業生活を基本とした人生観を養い、進路を探索し、進路計画の吟味を行い、進路を決定することができる。					

◎ 学級指導における進路指導の年間指導計画 (例)

表 3

学年	学期	教時	テーマ	領域	学習のねらい
一 年	1 学期	1	中学生生活と進路 (1) 私の夢	人生設計	自分の将来について、夢や希望をもつことができる。
		2	職業とこれからの進路	人生設計	職業の意味を考え、自分の進路を考えていこうとする意欲をもつことができる。
		3	個性と職業 (1) 私の特徴	自己理解	自分の性格や長所・短所をとらえることができる。
		4	個性と職業について	自己理解	個性と職業について考え、長所を伸ばし短所は直して自分にあった職業をさがしていこうとする意欲をもつことができる。
		5	身近なひとの職業について調べよう (1) 調べ方について 〔調査〕	職業理解	職業調査をするときの観点や方法がわかる。
	2 学期	6	身近なひとの職業について	職業理解	身近な人の職業調査を行い、その発表等を通して、職業に対する関心を高めることができる。
		7	いろいろな職業	職業理解	職業調査等を通して、いろいろな職業の仕事の中身を知ることができる。
		8	職業につく道すじ	職業理解	中学校を卒業してから職業につくまでの大すじをとらえることができる。
		9	将来の計画を立てよう (1) 計画の立て方について 〔計画作成〕	人生設計	進路計画を立てる意味を考え、どのようなことをどのような順番で作成したらよいかかわかる。
		10	友だちの進路計画に学ぶ	人生設計	進路計画の作成、発表を通し、進路をさらに深く考えていこうとする意欲をもつことができる。
二 年	1 学期	1	自己を知ろう (1) 性格検査	自己理解	性格検査をする。
		2	結果の利用の仕方	自己理解	結果の正しい見方がわかり、それをこれからの生活や進路の選択に役立てようとする態度が身につく。
		3	人間は何のために働き、何のために学ぶのか	人生設計	人間は何のために働き、何のために学ぶのかについて考え、職業を選ぶときの基準や価値観をもつことができる。
		4	職業への道を調べよう (1) 職業と産業 〔調査〕	職業理解	職業と産業のちがいがわかり、それらについて、日本標準分類による内容を理解することができる。
		5	職業の内容と特色	職業理解	いろいろな職業をいくつかの観点から分類し、その内容と特色について理解を深め、職業に対する視野を広げることができる。
	2 学期	6	上級学校と職業	職業理解	中学校を卒業してからの学校制度を調べ、職業につくまでのいろいろな進路を探ることができ。
		7	高等学校の内容	職業理解	高等学校の課程や学科を整理し、そこではどんなことを勉強するのか、そしてどんな職業や上級学校につながっていくのかについて理解を深めることができる。
		8	進路の計画 (1) 自分についてのまとめ	自己理解	進路計画を立てる意義を理解し、いろいろな資料をもとに自分の進路選択に必要なことを整理することができる。
		9	進路計画の立て方 (1) 計画作成	人生設計	自分についてまとめたことをもとに、進路希望をより具体化し、その実現をめざして計画を作成することができる。
		10	進路計画の見直し	人生設計	各自の進路計画の発表などを通し、計画をさらに見直すことができる。
三 年	1 学期	1	進路計画の吟味 (1) 進路計画といまの自分	自己理解	最終学年になつたいまの自分をみつめ、いろいろな観点から進路計画を吟味することができる。
		2	希望を実現するために	自己理解	進路希望を実現するための努力目標を定め、問題点を克服していこうとする意欲をもつことができる。
		3	進路の選択 (1) 進路選択にむけて	人生設計	進路を選択しようとする目的や理由を明確にすることができる。
		4	希望を実現するための課題	自己理解	進路希望を実現するための夏休みの課題を確認し、課題を克服しようとする意欲をもつことができる。
		5	進学先・就職先の決定 (1) 希望進路といまの自分	自己理解	進路希望を実現できそうか、いまの自分を評価し、進路を確認または変更することができる。
	2 学期	6	希望する学校、会社等の確かめ (1) 調査	自己理解	進路先(学校、専業所等)について必要な調査・確認を行い、そこをめざして最善を尽くそうとする意欲をもつことができる。
		7	進学先・就職先の決定	人生設計	進学先・就職先を決定し、入社試験等への準備ができる。
		8	入試にむけて (1) 入試までの手続き	職業理解	入試にむけて必要なことを確認し、全力を尽して努力しようとする決意が定まる。
		9	受験の心構え	職業理解	受験の心構えをきき、全力を尽して入試に臨もうとする決意が定まる。
		10	将来への希望	人生設計	将来への希望を大きくもち、残り少し中学校生活を充実させようとする決意が定まる。

2 調査結果から

(1) 自己理解について

進路を選択するには、自分自身の性格や長所・短所、適性などを知り、自分はどうな人間であるかを理解することが必要である。そのためには、いろいろな学習が必要になってくる。これまで、どんな学習経験をしているかなどをみてみたい。

ア 自分の性格や適性などを知るための学習

自分自身や友だち同志の観察による自己理解はどうであろうか。

*4
〔教師を対象とした調査〕 Na3
自分の性格や長所・短所、適性などについて、文章にまとめさせたり、クラスで話しあいをさせたりし、自己理解を深める。%

教師 (212人)	1. 指導している	74.1	2. 指導していない	25.9

*5
〔生徒を対象とした調査〕 質問2
あなたは今まで、自分の性格や長所・短所、適性を知るために、どのようなことをしたことがありますか。つぎのことをしたことがあるかどうか教えてください。
(1) クラスの友だち同志で、おたがいのことをおしえあったこと。%

全体 (3,199)人	1. ある	51.6	2. ない	48.3
男 (1,641)	42.8	57.0		
女 (1,558)	60.7		39.1	
1年 (1,064)	52.3		47.2	
2年 (1,084)	46.7		53.2	
3年 (1,051)	55.8		44.2	

自分の性格や長所・短所、適性などについて、文章にまとめさせたり、クラスで話しあいをさせたりして自己理解を深める指導は、多くの教師が行っている。生徒も約半数が友だち同志でおたがいのことをおしえあったことがあるとこたえている。おしえあったことがあるとこたえた割合は、女子が男子より20%近くも高い。また、学年別にみると、3年生でわずかではあるが増加がみられる。

*4 教師を対象とした調査の質問文および集計値の一覧は34ページにのせてある。

*5 生徒を対象とした調査の質問文および集計値の一覧はのせなかったが、各質問ごと考察の順にすべて(質問1～質問15)のせてある。

自分がどんな人間であるかを自覚するためのもう一つの方法として、性格検査や適性検査などによる自己分析の方法がある。これらの検査やその他の資料の活用状況はどうであろうか。

〔教師を対象とした調査〕 №4, №5

4 性格検査や適性検査の実施 %

教師 (212人)	1. 実施している 44.8	2. 実施していない 55.2
-----------	-------------------	--------------------

5 性格検査や適性検査の結果とその活用の仕方 %

教師 (212人)	1. 指導している 29.7	2. 指導していない 70.3
-----------	-------------------	--------------------

*6
〔進路指導主事を対象とした調査〕 1 2

あなたの学校では、進路指導に関する情報や資料がたくさん用意され、それらがうまく活用されていますか。

主事 (57人)	1. いる 26.3	2. いない 71.9
----------	---------------	----------------

性格検査や適性検査を実施しているところでは4割強であるが、その活用の仕方については、指導を行っているのが3割と少くなる。また、進路指導に関する情報や資料が用意され、それらがうまく活用されているところでは進路指導主事は3割にも達せず、資料も十分活用されているとはいえない状況にある。

一方、生徒はどのようにこたえているだろうか。

*7
〔生徒を対象とした調査〕 質問2

(2) 性格や適性について書いてある本や資料を調べたこと %

全体 (3,199人)	1. ある 24.4	2. ない 75.3
-------------	---------------	---------------

(3) 学習成績や身体検査、体力検査などの結果をもとにして自分のとくちやをまとめたこと %

全体 (3,199人)	1. ある 19.6	2. ない 80.2
-------------	---------------	---------------

(4) 性格検査や適性検査をしたこと %

全体 (3,199人)	1. ある 24.8	2. ない 74.8
-------------	---------------	---------------

生徒の回答をみても、性格検査や適性検査を受けたことのある生徒は少く、学習成績やいろいろな検査の結果をもとにして自分の特徴をまとめたりする学習経験は少いといえる。

*6 進路指導主事を対象とした調査の質問文および集計値の一覧は33ページにのせてある。
*7 質問文は11ページにある。

イ 自分の性格についての理解

自分の性格などについては、どの程度の理解ができているであろうか。

〔生徒を対象とした調査〕 質問3

あなたは自分の性格や長所・短所、適性について言うことができますか。一つえらんでください。

1. はっきり言うことができる。
2. だいたい言うことができる。
3. すこし言うことができる。
4. 言うことができない。

全体 (3,199人)	1. 7.9	2. 47.1	3. 38.1	4. 6.8
男 (1,641)	7.2	42.6	40.8	9.4
女 (1,558)	8.7	51.8	35.3	4.2
1年 (1,064)	8.5	43.4	40.0	8.0
2年 (1,084)	6.2	47.2	39.8	6.7
3年 (1,051)	9.1	50.6	34.4	5.8

自分の性格や長所・短所、適性について、はっきり言うことができる生徒は少いが、だいたい言うことができる生徒は約半数である。女子は男子とくらべて、はっきり言うことのできる割合が高い。また、選択肢1,2の回答率を合わせた数は、学年が進むにつれて少しずつ増えている。

ウ 自分にあうと思う職業

自己理解をもとにして、自分にはこんな仕事に向いているのではないかと考え、職業選択への第一歩をふみ出しているであろうか。

〔生徒を対象とした調査〕 質問4

(1) あなたは、自分にあうと思う職業をあげることができますか。

全体 (3,199人)	1. できる 24.5	2. できない 75.2
男 (1,641)	24.8	75.0
女 (1,558)	24.3	75.3
1年 (1,064)	25.6	74.1
2年 (1,084)	22.9	76.7
3年 (1,051)	25.2	74.7

上で1をえらんだ人は、つぎの質問にこたえてください。
(2) 自分にあうと思う職業を一つあげ、その理由を書いてください。

自分にあうと思う職業	
そう思う理由	

〔教師を対象とした調査〕 №6

個性の大切さを認識させるとともに、個性の伸長と個性にあった職業を選択しようとする態度を養う。%

教師 (212人)	1. 指導している 50.0	2. 指導していない 50.0
-----------	-------------------	--------------------

半数の教師が個性にあった職業を選択しようとする態度を養うための指導を行ったとこたえている。しかし、自分にあうと思う職業をあげることができた生徒は3割にも達しない。

また、自分にあうと思う職業をあげた生徒について、その内容をみると、専門的・技術的職業名をあげた生徒が41.4%、生産工程・技能的職業名をあげた生徒が20.1%、サービス・販売的職業名をあげた生徒が15.2%、事務的職業名をあげた生徒が3.7%となっており、生徒は、「専門的、技術的、技能的」といわれるような職業を志向していることがわかる。そして、農漁業をしたいという生徒も4.7%みられる。

つぎに、(2)において、そう思う理由については記述による回答を求めたが、「自分の個性や能力を生かすことができるから」に含まれる回答が77.1%と圧倒的に多く、残りは、「平凡であっても安定した生活ができるから」(7.6%)、「家業を受けつぐから」(4.5%)、「世の中の人のためにつくすことができるから」(2.1%)といった内容の回答であった。

これまでのことをとおしてみると、生徒は自己理解が深まっているとはいいがたい。いろいろな検査の結果や資料などを活用して、自分の性格や興味・関心、能力・適性などを調べ、それを職業と結びつけて考えていく学習が不足しているといえる。

(2) 職業理解について

進路の選択は、職業についても持っている知識・理解によって大きな影響を受ける。職業についての知識・理解はどの程度であるのかをみてみたい。

ア 家族や身近な人の職業

身近な人の職業についての知識・理解はどうであろうか。

〔教師を対象とした調査〕 №7

家族や先輩など身近な人の職業について調べさせ、職業に対する関心を高めるとともに、いろいろな職業の内容を理解させる。%

教師 (212人)	1. 指導している 42.0	2. 指導していない 58.0
-----------	-------------------	--------------------

職業理解のための基本的な学習であり、生徒にも身近かで取りあげやすい内容と思われるが、指導している割合が高いとはいえない。

〔生徒を対象とした調査〕 質問5

あなたは家族や身近な人の職業について、つぎのことを知っていますか。どなたか一人を思いうかべてたえてください。

(1) その人の職業名

	1. 知っている	2. 知らない	%
全体 (3,199)人	95.4	4.4	
男 (1,641)	94.1	5.6	
女 (1,558)	96.9	3.1	
1年 (1,064)	93.8	5.8	
2年 (1,084)	95.1	4.8	
3年 (1,051)	97.5	2.0	

(2) どんな仕事をしているか(仕事の内容)

	1. 知っている	2. 知らない	%
全体 (3,199)人	87.4	12.5	
男 (1,641)	84.6	15.3	
女 (1,558)	90.3	9.6	
1年 (1,064)	85.8	14.0	
2年 (1,084)	87.7	12.2	
3年 (1,051)	88.6	11.4	

(3) その人がその職業をえらんだきっかけや理由

	1. 知っている	2. 知らない
全体 (3,199)人	26.9	72.9
男 (1,641)	22.4	77.5
女 (1,558)	31.8	68.2
1年 (1,064)	22.6	77.2
2年 (1,084)	25.8	74.1
3年 (1,051)	32.5	67.5

(4) その仕事をしていて楽しいことやつらいこと

	1. 知っている	2. 知らない
全体 (3,199)人	52.4	47.5
男 (1,641)	46.7	53.1
女 (1,558)	58.4	41.5
1年 (1,064)	49.2	50.7
2年 (1,084)	50.8	49.1
3年 (1,051)	57.4	42.5

(5) ひと月または1年間のおおよその収入

	1. 知っている	2. 知らない
全体 (3,199)人	31.1	68.8
男 (1,641)	28.0	71.9
女 (1,558)	34.4	65.5
1年 (1,064)	27.3	72.6
2年 (1,084)	30.0	69.9
3年 (1,051)	36.2	63.7

(6) その職業の将来の見通し

	1. 知っている	2. 知らない
全体 (3,199)人	17.4	82.4
男 (1,641)	17.4	82.4
女 (1,558)	17.5	82.3
1年 (1,064)	12.9	86.8
2年 (1,084)	17.0	82.9
3年 (1,051)	22.5	77.3

生徒は身近な人の職業名と仕事の内容については非常によく知っており、また、仕事の楽しさ、つらさについては半数程度の生徒が知っている。しかし収入のことやその職業を選んだ理由については知っている生徒が少い。すべての項目において、女子の方が男子よりも知っているところえた割合が高く、特に、その仕事をしていて楽しいことやつらいことという項目では約12%も高い。また、学年が進むにつれて、知っている割合がすべての項目で少しずつ増えている。

イ 職業や働くことの意義

職業や働くことの意義についての知識・理解はどうであろうか。

[教師を対象とした調査] Na2, Na13

2 職業の意義について考えさせるとともに、人間はいつか職業につかなければならないという自覚をもたせる。

	1. 指導している	2. 指導していない
教師 (212人)	60.4	39.6

13 人間は何のために働き、何のために学ぶのかについて考えさせ、職業を選択するときに必要な価値観を育てる。

	1. 指導している	2. 指導していない
教師 (212人)	42.9	57.1

[生徒を対象とした調査] 質問6

つぎの文は職業に関係した質問です。あなたはそれぞれの質問にどのていど説明できますか。一つえらんでください。 1. できる 2. だいたいできる 3. すこしできる 4. できない

(1) 職業とはこういうものです、と説明できますか。

	1. できる	2. だいたいできる	3. すこしできる	4. できない
全体 (3,199)人	4.6	25.9	52.0	17.5
男 (1,641)	5.4	27.4	48.5	18.6
女 (1,558)	3.7	24.3	55.6	16.2
1年 (1,064)	4.4	24.3	51.7	19.5
2年 (1,084)	3.4	25.3	54.7	16.7
3年 (1,051)	6.0	28.1	49.6	16.3

(2) 人間が生きていくうえで、職業をもつという意味を説明できますか。

	1. できる	2. だいたいできる	3. すこしできる	4. できない
全体 (3,199)人	9.8	28.8	43.2	18.2
男 (1,641)	11.5	29.1	39.2	20.2
女 (1,558)	7.9	28.4	47.5	16.2
1年 (1,064)	9.1	24.8	41.6	24.4
2年 (1,084)	8.9	29.2	45.0	16.9
3年 (1,051)	11.3	32.3	43.0	13.3

全学年をととして、職業の意義や職業をもつことの意味を説明できる割合は低い。このことについては、6割の教師が教えたこととたえており、また、何のために働き、何のために学ぶのかについて考えさせ、職業を選択するときに必要な価値観を育てることについては、4割強の教師が教えたこととたえている。生徒の職業観や職業を選択するときの価値観を養うことはきわめて重要なことであることを考えれば、この指導で十分であるとは決していえないだろう。

ウ 職業と産業

職業と産業についての知識・理解はどうであろうか。

〔教師を対象とした調査〕 №8, №9

8 職業と産業のちがいを理解させるとともに、日本標準分類による分類のし方とそれらの内容について知らせる。

教師 (212人)	%	
	1. 指導している	2. 指導していない
	19.8	80.2

9 職業を、仕事の内容・特色、それに対する適性、それにつくための資格・条件などの観点から整理させ、職業についての理解を深める。

教師 (212人)	%	
	1. 指導している	2. 指導していない
	48.1	51.9

職業と産業のちがいや職業の日本標準分類について、指導を行っている割合がきわめて低い。職業をいろいろな観点から整理させ、職業についての理解を深める指導も十分であるとはいえない。

〔生徒を対象とした調査〕 質問6

(3) 職業と産業のちがいを説明できますか。

全体 (3,199人)	%			
	1. できる	2. だいたいできる	3. すこしできる	4. できない
全体 (3,199)	5.3	16.3	36.0	42.4
男 (1,641)	6.9	16.9	35.5	40.6
女 (1,558)	3.5	15.7	36.6	44.2
1年 (1,064)	5.6	16.4	35.2	42.9
2年 (1,084)	5.1	17.4	34.9	42.6
3年 (1,051)	5.0	15.2	38.1	41.6

(4) 第一次産業、第二次産業、第三次産業について、例をあげて説明できますか。

全体 (3,199人)	%			
	1. できる	2. だいたいできる	3. すこしできる	4. できない
全体 (3,199)	6.6	8.9	18.3	66.2
男 (1,641)	18.8	10.7	19.2	61.3
女 (1,558)	4.3	7.0	17.4	71.3
1年 (1,064)	2.9	5.3	13.1	78.8
2年 (1,084)	4.2	7.7	17.9	70.2
3年 (1,051)	12.7	13.8	24.1	49.3

職業と産業のちがいを説明できる割合は学年をととしてきわめて低い。「できる」と「だいたいできる」を合わせても2割程度である。第一次産業、第二次産業、第三次産業について、例をあげて説明できる割合は、学年が進むにつれて高くはなっているが、3年生でも3割弱、全体としては2割にも達せず、きわめて低い。

〔生徒を対象とした調査〕 質問6

(5) 職業につく人がへってきている産業、また急にふえてきている産業について、例をあげて説明できますか。

全体 (3,199人)	%			
	1. できる	2. だいたいできる	3. すこしできる	4. できない
全体 (3,199)	8.2	13.0	24.7	54.1
男 (1,641)	10.8	14.5	24.1	50.6
女 (1,558)	5.8	11.4	25.4	57.8
1年 (1,064)	5.0	8.3	20.0	66.6
2年 (1,084)	6.8	12.4	25.6	55.2
3年 (1,051)	12.8	18.4	28.5	40.2

職業につく人がへってきている産業、また急にふえてきている産業について、例をあげて説明できる割合は、学年が進むにつれ少しずつ増えているが、全体としてはこれもきわめて低い。

〔生徒を対象とした調査〕 質問7

つぎの(1)~(4)にあてはまる職業を、下の1~7から2つずつえらび、例にならって記入してください。

例	人を相手にして働く職業	1	7	2問とも正答の割合
(1)	物をつくる職業			(1) 88.8%
(2)	高度の知識や技術または才能を必要とする職業			(2) 79.0
(3)	資格や免許を必要とする職業			(3) 57.7
(4)	サービス業といわれる職業			(4) 56.6

1. 美容師 2. 作曲家 3. トラック運転手 4. 研究者 5. 大工 6. テレビ組立工
7. スチュワーデス

職業名が、生徒にとって身近なものであったために、正答率は全体的に高い。しかし、資格・免許を必要とする職業やサービス業といわれる職業については、正答率が低くなっており、仕事の内容や特徴を十分理解しているとはいえない。

エ 上級学校の内容と職業への道すじ

上級学校の内容と職業につながる道すじについての知識・理解はどうであろうか。

〔教師を対象とした調査〕 №10, №11, №12

10 中学校を卒業してから職業につくまではいろいろな道すじがあることを理解させる。

教師 (212人)	%	
	1. 指導している	2. 指導していない
	78.8	21.2

11 中学校卒業後のいろいろな上級学校について調べさせ、進路希望を達成するにはどのような道すじを選ばよいかを考えさせる。%

教師 (212人)	1. 指導している	2. 指導していない
	63.7	36.3

12 高等学校にはいろいろな学科があることを理解させるとともに、そこではどんなことを勉強するのか、そしてどんな職業や上級学校につながっていくのかについて理解させる。%

教師 (212人)	1. 指導している	2. 指導していない
	73.1	26.9

〔生徒を対象とした調査〕 質問8

中学校を卒業してから将来職業につくまでにはいろいろな道すじがあり、同じ職業につくにしてもいくつかのちがった道すじがあります。たとえば、銀行の事務員になるにはどんな道すじがありますか。3とおり示してください。

〔書き方の例〕 市役所の土木関係の仕事につくときの一例

中学校 → 高等学校土木科 → 市役所

中学校	→	→ 銀行に入社
中学校	→	→ 銀行に入社
中学校	→	→ 銀行に入社

この記述による回答を調べた結果、妥当と考えられる道すじを回答した割合は全体でつぎのとおりであった。%

全体 (3,199人)	1. 妥当な道すじを回答	2. 誤答および無答
	49.7	50.3

中学校を卒業してから銀行に入社するまでの道すじを3とおりこたえさせる質問であるが、妥当と考えられる道すじの回答の割合は全体で5割である。そのなかみは、高等学校の商業科から入社するというのが13.3%、普通科などその他の学科から入社するというのが15.3%、高等学校、大学を終えてからというのが13.7%、短大や各種学校等からというのが7.4%であった。前ページの教師への質問№10、11、12でみたように、教師が、職業への道すじや上級学校の内容について指導を行ったとこたえた割合は78.8%、63.7%、73.1%と相当高い。しかし、生徒にとっては銀行員という職業が身近なものであることや、採点に際して、たとえば、「中学校 → 農業高校 → 銀行に入社」など、可能性のあるすべての道すじを妥当としたことなどを考えると、もう少し妥当な回答の割合が高くなってよく、職業につながる道すじや上級学校の内容についての指導が十分であるとはいえない結果となっている。

これまでのことをとおしてみると、職業についての知識・理解は十分であるとはいえず、また、上級学校の内容についても、職業と具体的に結びつけて理解がはかられているとはいえない。

(3) 人生設計について

人間の望ましい生き方を考えるとき、そのもとになるのは、将来の仕事や生活にたいする夢や希望をもつことであろう。それらは、いろいろな学習経験をとおして、それぞれの個性に応じて広がり、少しずつ現実近づいていくのではなからうか。

人生の夢や希望を実現させるために、これまでどんな人生設計をしてきたかをみてみたい。

ア 職業や仕事に対する夢や希望

職業や仕事にたいして夢や希望をもっているであろうか。

〔生徒を対象とした調査〕 質問1

あなたはこんな職業につきたい、こんな仕事をしたいという夢や希望をもっていますか。一つえらんでください。

1. 中学校に入学したころからずっともっている。
2. 中学校に入学したころはもっていなかったが、いまはもっている。
3. 中学校に入学したころはもっていたが、いまはもっていない。
4. 中学校に入学したころからもっていない。

全体 (3,199人)	1.	2.	3.	4.
	27.8	35.6	16.2	20.1

いま夢や希望をもっているとこたえた生徒は、選択肢1と2の回答率を合わせた6割強の生徒である。残りの4割弱の生徒は、仕事や職業について夢や希望をもっていないとこたえている。また、入学したころはもっていたが、途中でそれをなくしてしまったとこたえた生徒も2割弱みられる。1と2の回答率の合計を学年別でみると、1年は61.0%、2年は61.3%、3年は68.1%となり、学年が進むにつれてわずかながら増えている。

一方、教師はつぎのようにこたえている。

〔教師を対象とした調査〕 №1

こんな職業につきたい、こんな仕事をしたいといったことについて、クラスで話しあいをさせたり、作文に書かせたりし、将来への夢や希望をはぐくむ。

教師 (212人)	指導している		指導していない	
	1.	2.	%	
	指導している	指導していない		
	82.5	17.5		

8割以上の教師が将来への夢や希望をはぐくむための指導を行っている。それにたいし、夢や希望をもっていないとこたえた生徒が全体で4割近くおり、しかも1年生が多いということは、生徒の夢や希望をはぐくむような内容については、もっとこれを重視し、きめこまかい指導を行う必要があることを示しているように思われる。

イ 職業を選ぶときの決め手

このことについては、考え方のちがいにより一人一人差異があらわれて当然のところであろう。生徒はどのように考えているであろうか。

〔生徒を対象とした調査〕 質問9

あなたが職業をえらぶとき、もっとも決め手として考えたいことを一つだけえらんでください。

1. 収入が多いこと
2. 世の中の人からえらいと思われたり高い評判をうけること
3. 世の人のためにつくすことができること
4. 働く時間がきちんとして自由に使える時間が多いこと
5. 個性や能力を生かすことができること
6. 平凡であっても安定した生活ができること
7. 家から近く、通うのに便利なこと
8. 家業を受けつぐこと
9. そのようなことを考えたことがない

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
全体 (3,199人)	17.1	6.6	5.8		43.9	16.5			4.8
1年 (1,064)	19.8	2.1	8.2	6.7	37.8	14.6		6.8	
2年 (1,084)	14.7	6.6	5.0		44.7	18.6		4.5	
3年 (1,051)	16.8	4.9	5.9		49.2	16.1			

全体でみると、回答率ももっとも高いのは、「5. 自分の個性や能力を生かすことができること」の43.9%である。ついで、「1. 収入が多いこと」の17.1%と「6. 平凡でも安定した生活ができること」の16.5%がめだっている。

この上位三つの理由を学年別にみると、選択肢5をえらぶ生徒は学年が進むにつれて多くなり、3年ではほぼ半数に達している。選択肢1と6については、1年から2年にかけての変化が大きく、価値観のゆれも大きいことを示している。

職業選択の理由としてもっと増えてもよいと思われるのは選択肢3である。これをえらんだ回答率は、1年が8.2%、2年が6.6%、3年が4.9%と学年が進むにつれて漸減しており、望ましい傾向とはいえないのではないだろうか。学年が進むにつれて選択肢5の回答率が高くなっていることから、進路についての学習の成果がみられる一方、選択肢3の回答率が低いことは、価値観を育てるための適切な指導がもっと必要とされている状況をあらわしているといえる。

ウ 進路計画の作成

学年に応じて進路計画を作成し、人生設計をしているであろうか。

〔生徒を対象とした調査〕 質問10

- (1) あなたは自分の将来の進路について計画を立てたことがありますか。

	1. ある	2. ない
全体 (3,199人)	38.9	60.6
1年 (1,064)	32.2	67.1
2年 (1,084)	38.1	61.5
3年 (1,051)	46.5	53.2

上で1をえらんだ人はつぎの質問にこたえてください。

- (2) その進路の計画にはどんなことを書きましたか。つぎのことを書いたかどうかこたえてください。

	「書いた」とこたえた割合%
① 将来つきたい職業とそう思う理由	69.9
② 進学したい上級学校とそう思う理由	62.2
③ 性格や趣味・特技	54.5

④ 仕事に対する興味・関心や適性	50.9%
⑤ 学習成績や勉強のしかた	37.2
⑥ 健康と体	30.4
⑦ 父母の考え	48.6
⑧ 先生の考えやアドバイス	14.8
⑨ 進路希望を実現するためにこれから努力しなければならないこと	63.3

(1)について、進路計画を立てたことがあるとこたえたのは、全体で4割に満たない、これを学年別にみると、学年が進むにつれて「立てた」とこたえた割合が高くなり、1年生の32.2%が3年生では46.5%にまで増えている。いずれにしても、進路計画を立てたことのある生徒は多いとはいえない。特に、3年生が46.5%ということは、3年後半のまとめの段階でも、なお、進路計画を立てたことのない生徒が半数以上みられるということであり、進路計画の作成をとおして人生設計をしているとはいいがたい状況にある。

つぎに(2)において、進路計画を立てたことがあるとこたえた生徒にたいし、その計画にはどんな内容を書いたかと質問したところ、回答率の高いのは、「①将来つきたい職業とそう思う理由」「⑨進路希望を実現するためにこれから努力しなければならないこと」「②進学したい上級学校とそう思う理由」で、もっとも低かったのは「⑧先生の考えやアドバイス」である。進路計画に①と②が多く書かれるのは当然としても、特に、⑨が高い割合を占めているのが注目され、進路を真剣に考えている生徒の姿がうかがわれる。なお、回答率が著しく低い⑧については、教師の回答とあわせて考えてみる必要がある。

〔教師を対象とした調査〕 №14

進路計画を作成する意義について考えさせるとともに、計画にもる項目・内容および計画の表し方等について工夫させ、進路計画を立てようとする意欲をもたせる。

	%	
教師 (212人)	1. 指導している 25.5	2. 指導していない 74.5

進路計画について指導を行っているという回答は3割にも満たない。生徒の回答とあわせて考えてみると、生徒が進路計画の作成について意欲をもつかどうかは、教師の指導と大きくかかわっているということがわかる。

エ 希望する進路についての吟味

希望する進路を吟味することは、進路計画を作成することと同じように重要である。これについてはどのような学習経験をしているだろうか。

〔生徒を対象とした調査〕 質問11 (1)

- (1) あなたは進学を希望している上級学校や就職を希望している会社などを訪問したり、そこに行っている人や先輩の話をきいたことがありますか。一つえらんでください。

1. 希望している上級学校を訪問して、その人や先輩の話をきいたことがある。
2. 希望している会社や事業所を訪問して、その人や先輩の話をきいたことがある。
3. 訪問したことはないが、希望している上級学校や会社・事業所の人や先輩の話をきいたことがある。
4. そのような経験がない。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	無答
1年 (1,064人)	3.3	3.3	16.3	76.4						
2年 (1,084)	2.9	3.4	29.4	64.0						
3年 (1,051)	12.5	3.1	41.5	42.4						

希望している学校や会社・事業所を訪問したり、その人の話をきいたりするという何らかの経験をしている生徒は、選択肢1, 2, 3を選んだ生徒の合計である。合計した割合は、1年生が22.9%, 2年生が35.6%, 3年生が57.1%のように増えており、希望する進路先についての情報が、学年が進むにつれ増えていくようすがうかがわれる。一方、「4. そのような経験がない」とこたえた生徒が、3年生でさえ4割をこえている。これは、進路の探索・吟味の重要性という観点から、考えてみなければならない結果であるといえる。

つぎに、そうした経験をしたことのある生徒にとって、学校や会社を見たり、その人の話をきいたりしてもっとも強く感じたことは何だったのだろうか。

〔生徒を対象とした調査〕 質問11 (2)

上で1, 2, 3のどれかをえらんだひとは、つぎの質問にこたえてください。

(2) 希望している上級学校または会社・事業所をじかに見たり、その人の話をきいて、もっともつよく感じたことは何ですか。一つえらんでください。

- 自分が思っていたのとちがってびっくりした。
- そこに行きたい気持ちがつよくなった。
- 進路についてもう一度考えなおさなければならぬと思った。
- そこに行くのがいやになった。
- とくに感ずることがなかった。

経験のある生徒 (1,224人)	1	2	3	4	5
	19.6	39.4	18.5	19.3	3.2

これをみると、「2.そこに行きたい気持ちがつよくなった」とこたえた生徒がもっとも多く、約4割である。選択肢5をえらんだ約2割の生徒を除き、これから進もうとしている学校や会社などについて、何らかの刺激を受けたことがわかる。つまり、進路にたいする自分の考えに一層の自信をもつようになった生徒、もう一度考えなおさなければならぬと思った生徒、そこに行くのがいやになった生徒など、進路の吟味という観点からはそれぞれ有意義な学習経験をもったといえる。

これについて、教師の指導の状況はどうであろうか。

〔教師を対象とした調査〕 №17

生徒が希望している上級学校や会社・事業所を訪問させたり、その人や先輩の話をきかせることにより、進路計画を吟味させ、それを一層確かなものにさせる。

教師 (212人)	1	2
	11.8	88.2

指導しているとこたえているのは、わずか1割強で、9割近くの教師は実施していないとこたえている。生徒の回答とあわせて考えてみると、希望している進路を吟味する機会、教師の指導の有無と大きくかかわっているといえよう。

オ 卒業後の進路

生徒はいま、卒業後の進路をどう考えているだろうか。

〔生徒を対象とした調査〕 質問15

(1) あなたはいま、中学校を卒業したらどのような道に進みたいと思っていますか。一つえらんでください。

- 就職したい。
- 家業をつぎたい。
- 高等学校(全日制)の普通科に進みたい。
- 高等学校(全日制)の職業に関する学科(商業科, 農業科, 機械科など)に進みたい。
- 高等学校(全日制)の理数科または音楽科に進みたい。
- 定時制または通信制の高等学校に進みたい。
- 国立高等専門学校に進みたい。
- 専修学校, 各種学校, 高等職業訓練校, 高等技術専門校のうちのどれかに進みたい。
- まだはっきりしていない。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	無答
全体 (3,199人)	3.9	49.4	23.2	3.7	2.5	2.9	11.0	16.2		
1年 (1,064)	3.9	45.2	23.2	3.7	2.5	2.9	11.0	16.2		
2年 (1,084)	3.9	50.4	27.7	3.7	2.5	2.9	10.8			
3年 (1,051)	3.9	52.7	33.4	3.7	2.5	2.9	5.9			

上で、3~8のなかからえらんだ人は、つぎの質問にこたえてください。

(2) あなたが上でえらんだ上級学校に進みたいと思うもっとも大きな理由は何ですか。一つえらんでください。

- もっと広く、深く勉強したいから
- 職業に必要な知識や技術を身につけたいから
- 経済的な理由から
- 大学や短大に進みたいから
- みんなが行くから
- 高等学校の生活を享受したいから
- 家の人にすすめられるから
- 高等学校くらいでいいとあとでこまるから
- 行きたいと思う高等学校には入れないから

進学希望 (2,660人)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	無答
	5.9	41.8	14.8	1.6	2.3	2.2	17.5	1.1		

① 全日制の普通科に進学を希望している理由

普通科希望 (1,581人)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	無答
	7.3	24.7	22.6	1.3	2.8	1.5	22.0	0.5		

② 全日制の職業に関する学科に進学を希望している理由

職業科希望 (898人)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	無答
	11.8	66.5	18.8	1.6	2.6	7.6	11.5	1.3		

(1)の回答をみても、全日制の普通科に進学を希望している生徒は全体の約半数、職業に関する学科に希望している生徒は約3割となり、あわせると、全日制に進学を希望している生徒は全体の約8割になる。また、学年が進むにつれて、進路が「9. まだはっきりしていない」という生徒が減少し、それが、全日制の職業科や普通科への希望となってはっきりしていくようすがみられる。

(2)において、進学を希望している生徒にたいし、上級学校に進みたいと思うもっとも大きな理由は何なのかを質問してみた。進学する理由として望ましいと思われる選択肢は1, 2, 4であるが、「2. 職業に必要な知識や技術を身につけたいから」をえらんだ生徒がもっとも多く41.8%、「4. 大学や短大に進みたいから」をえらんだのが14.8%、「1. もっと広く深く勉強したいから」をえらんだのが5.9%で、あわせると進学を希望している生徒の62.5%になる。これらの生徒には、卒業後の生活にたいする自主性と積極性をみることができよう。

一方、残り六つの選択肢はあまり望ましいとはいえない内容になっているが、「8. 高等学校くらいでいてないとあとでこまるから」をえらんだ17.5%、「6. 高等学校の生活を楽しまたいから」をえらんだ12.4%の生徒など、あわせて4割近くの生徒がこうした自主性、積極性のみられない理由をあげている。

つぎに、(1)で大きな割合をしめていた高等学校の全日制の普通科と職業に関する学科を希望している生徒について、その進学理由を調べたところ①、②のような結果になった。

①の普通科希望については、選択肢1, 2, 4をえらんだ生徒の合計は54.6%になる。望ましくない理由としては、選択肢8をえらんだ22.6%、選択肢6をえらんだ15.7%が目立っている。

一方、②の職業科希望については、選択肢1, 2, 4をえらんだ生徒を合計すると71.7%と7割をこえる。望ましくない理由としては、やはり選択肢8をえらんだ11.5%、選択肢6をえらんだ7.6%が目立つが、①でみられた割合の半分程度であることが注目される。

このことから、職業に関する学科に進学を希望している生徒の目的意識は、普通科を希望している生徒のそれとくらべ、かなりはっきりしているということがわかる。

これまでのことをとおしてみると、生徒は将来の進路について十分考えを深めているとはいえない。特に、進路計画の作成・吟味をとおして人生設計をしていく学習が不足しているのがみられる。

(4) 進路を選択することができる能力について

自己理解、職業理解、人生設計についての学習の結果、進路を選択することができる能力はどのように育っているか、これをみてみたい。

「自分にあうと思う職業をあげることができますか」という質問にたいし、「できる」とこたえた生徒は各学年とも3割に満たなかった。将来の進路のことについて、2学期のなかばにおける生徒の気持ちはどのようなものであろうか。

〔生徒を対象とした調査〕 質問12

将来の進路のことについて、いまのあなたの気持ちにもっとも近いものを一つえらんでください。 *8

	1年	2年	3年
1. 将来つきたい職業や進路がまだはっきりしていないので、これからそうしたことを考えていきたい。	35.4%	35.4%	31.6%
2. 将来つきたい職業や進路がはっきりしているので、それを実現するために努力していきたい。	25.8	23.4	30.1
3. 将来つきたい職業や進路ははっきりしているが、それを実現するにはどんなことに努力していけばよいかわからない状態である。	16.1	18.5	21.2
4. 将来つきたい職業や進路がまだはっきりしていないので、何を目標に努力すればよいかわからない状態である。	11.4	17.4	14.7
5. 進路のことは考えていない。	10.1	4.5	1.7

進路を考えることができる能力の発達という観点からみると、ここでは、選択肢2をえらんだ生徒がもっとも望ましい状態にあるものと思われる。そのつぎに望ましいのは3で、4, 5は望ましいとはいえない。1は望ましいようにも思われるが、4とあまりちがいのないことがわかった。この理由については後述する。

将来つきたい職業や進路がはっきりしているとこたえた生徒(2, 3の回答者)は、3年生でさえほぼ半数である。しかもそのうちの4割は、それを実現するにはどんなことに努力していけばよいかわからないとこたえている。2学期なかばという時期にもかかわらず、3年生の約3割は、将来つきたい職業や進路がまだはっきりしていないので、これからそうしたことを考えていきたい、というばく然とした状態にある。何を目標に努力すればよいかわからない、という不安な状態にある生徒も1割をこえている。

学年が進むにつれて、2と3の回答が少しずつ増えているのはよい傾向であるが、目標が定まり、その実現のために努力していきたいという生徒が、3年生になってもまだ3割しかないということは、生徒に進路を自ら考え選択することができる能力が育っているとはいえないのではないだろうか。このことは、進路指導専任自身「あなたは、あなたの学校の生徒に、3か年で将来の進路を自ら考え選択できる能力が育っていると思いますか。」という質問にたいし、「思う」(5.3%)、^{*9}「思わない」(22.8%)、「どちらともいえない」(70.2%)と回答していることとも符合し

*8 数値はその選択肢をえらんだ学年における割合。学年ごとに数値があらわされている場合は以後同様である。

*9 33ページ参照

ている。

先の質問12について、進路を考えることができる能力の発達という観点からは、選択肢2の回答がもっとも望ましく、ついで3が望ましく、4、5は望ましくない。1も望ましいとはいえないということを述べたが、このことを説明したい。

質問12において、選択肢1～5を選んで回答したそれぞれの生徒の特徴をみるために、学年と5つの選択肢を組み合わせて15(3学年×5選択肢)の回答区分に生徒を分けた。質問項目は質問12を除き全部で62あるが、15それぞれの回答区分ごとに、62のすべての質問項目にたいする回答率を求め、回答の傾向を比較すれば、それぞれの回答区分の生徒の特徴をみることができるだろう。

つぎの表は、その一例として、2年生の各回答区分の生徒が質問6-1(1)にたいしてどのようにこたえているかを表すグラフである。

学年	人数	できる				%
		1	2	3	4	
2年-1	(384人)	1.6	23.2	59.4	15.9	
2年-2	(254)	7.1	33.5	48.0	11.4	
2年-3	(200)	3.5	27.0	57.5	12.0	
2年-4	(189)	2.6	19.0	55.6	22.8	
2年-5	(49)	2.0	18.4	32.7	46.9	

この質問では、選択肢1、2の回答を望ましいものと考えれば、確かに区分2の生徒がもっとも望ましい結果を示し、ついで区分3が望ましく、区分1は区分4とあまりちがいのないことがわかる。

このようにして、62個の全質問項目にわたって調べたところ、進路に関する学習経験や知識・理解を問う項目では、ほとんどの項目でこの例にみられるような傾向を示すことがわかった。ぱく然とした進路意識の状態にあると思われる区分1の生徒よりも、区分3の生徒、つまりどんなことに努力していけばよいかわからない不安をかかえながらも、将来つきたい職業や進路がはっきりしている生徒の方が、進路を考えることができる能力に関しては発達しているといえる。

生徒の多くが進路を自ら考え選択することができる能力を身につけるまでには至っていないといえる。このことは、将来つきたい職業や進路がはっきりしていない生徒が、3年生の後半で約半数みられることや、また、ほとんどの進路指導主事が、自分の学校の生徒に、中学校3か年で進路を自ら考え選択できる能力が育っているとは明言できない、という回答を示していることなどからよみとることができる。

*10 質問文は17ページ参照

(5) 進路に関する悩み・学習について

生徒は進路に関してどのような悩みをもっているか、また学習意欲はどうか、そして、進路に関する学習経験と進路を考えることができる能力の発達との間にはどのような関係がみられるか、これらのことを順次みていきたい。

ア 進路に関する悩み

いまの中学生は、進路に関して、どのようなことを悩んでいるであろうか。

〔生徒を対象とした調査〕 質問14

あなたはいま、進路のことについて悩んでいることがありますか。つぎのようなことで悩んでいるかどうかこたえてください。 1. 悩んでいる 2. 悩んでいない 1とこたえた回答率(%)

	1とこたえた回答率(%)		
	1年	2年	3年
(1) 成績のことや勉強のしかたのこと	70.6	77.3	82.8
(2) がんばろうとする気持ちがつかないこと	58.0	66.9	74.5
(3) 健康やからだのこと	20.5	18.8	18.9
(4) 家族のことや経済的なこと	22.8	24.0	27.0
(5) 中学校を卒業してからどんな生き方をしたらよいかということ	42.5	48.0	44.7
(6) どんな高等学校やどんな学科をえらばよいかということ	43.5	48.2	37.1
(7) 進学したらよいか、それとも就職したらよいかということ	17.3	14.9	9.8
(8) 進路のことで先生と意見があわないこと	7.0	5.9	8.3
(9) 進路のことで両親と意見があわないこと	12.8	16.0	17.7

成績のことや勉強のしかた、がんばろうとする気持ちがつかない意志の弱さについて、7割前後の生徒が悩みをもち、学年が進むにつれて増えている。学業が生活の主体であるということをも自覚し、成績や勉強のことを常に意識しながら、がんばろうとする気持ちが思うようにつかない自分自身に苦しんだり、悩んだりしている生徒の様子がこの結果にあらわれている。

健康や体、家族のことなどについての悩みは比較的少い。

進学したらよいか、それとも就職したらよいかという悩みは少いが、卒業してからどんな生き方をしたらよいかとか、どんな学科をえらばよいかといったことについての悩みは比較的多い。こうした生き方や学科選択についての悩みは、よくわからないことからくる不安な気持ちのあらわれとも考えられ、次項で明らかとなるように、それについて知りたい、学びたいという学習意欲の裏がえしともよみとることができる。

進路のことで教師や両親と意見があわないことを悩んでいるという生徒もきわめて少い。これは生徒が進路のことについて、父母や教師と十分話しあっているのであれば、望ましい結果であるといえるし、もし、生徒・父母・教師の話しあいが少ないなかで、父母や教師と意見があわないという悩みはないとこたえたのであれば、問題を含むものとしてとらえなければならぬだろう。

イ 進路についての学習意欲

進路についての学習意欲はどうであろうか。

〔生徒を対象とした調査〕 質問13

あなたは進路のことについて、これからどんな学習をしたいと思えますか。つぎの内容について、学習し

たいと思うかどうか教えてください。

「学習したいと思う」

	とこたえた割合(%)		
	1年	2年	3年
(1) こんな職業につきたい, こんな仕事をしたいといった将来の夢や希望について話しあうこと	64.1	68.9	71.2
(2) 自分がどんな仕事に向いているか, 性格検査や適性検査をして調べること	62.2	67.2	68.8
(3) 中学校を卒業してから職業につくまでのいろいろな道すじについて調べること	60.6	67.9	72.0
(4) 家族や先輩など身近な人の職業調査をすること	27.4	29.9	30.9
(5) 職業を, 仕事の内容, それに対する適性, その職業につくための資格・条件など, いろいろな角度から調べること	57.8	70.1	74.5
(6) 高等学校のいろいろな学科について, そこではどんなことを勉強し, どんな職業につながっていくのかを調べること	66.0	74.3	77.8
(7) 自分が希望している上級学校や会社・事業所などを訪問し, その人や先輩の話をしきくこと	39.1	42.3	53.9
(8) 人間は何のために働き, 何のために勉強するのかといった生き方について考えたり, 話しあうこと	37.7	33.0	38.1
(9) 自分の将来の進路について計画を立てること	61.7	68.5	69.9

(4)と(8)の項目が低い割合になった理由を検討する必要があるにしても, 進路の全領域にわたって生徒はかなりつよい学習意欲をもっているといえるだろう。

ここで, 学習意欲は生徒によって異なるものであるかどうかをみるためにつぎのことを調べた。

先の質問12において, 選択肢1~5を選んだ回答区分ごとに, この質問13の各項目にたいする回答率を求めてみた。つぎの表は, 3年生の各回答区分の生徒が質問13-②にたいし, どのよう^{*11}にこたえているかを表すグラフである。

〔生徒を対象とした調査〕 質問13

(2) 自分がどんな仕事に向いているか, 性格検査や適性検査をして調べること

	%	
3年-1 (332人)	1. 学習したいと思う 69.6	2. 学習したいとは思わない 30.1
3年-2 (316)	70.3	29.1
3年-3 (223)	66.4	33.2
3年-4 (154)	71.4	27.9
3年-5 (18)	55.6	44.4

この表をみると, 3年生で, 学習したいと思う割合がもっとも高いのは区分4の71.4%, もっとも低いのは区分5の55.6%で, その差は15.8%である。区分5の生徒数は18名と少いけれども, 3年生になっても「進路のことは考えていない」と表現しなければならない生徒たちである。進路指導上, 特に留意しなければならない生徒たちであるといえる。

グラフを全体的にみわたしたとき, 進路について学習したいという意欲は, 回答区分すなわち進路がはっきりしている, していないにかかわらず, 一様にあるということが認められるであろう。

同様に, 学年ごとに(1)から(9)までのすべての項目について学習したいという割合を調べたところ, この例とほぼ同じような傾向を示した。すなわち, 学習意欲においては回答区分による差が

*11 前掲 27ページ参照

あらわれなかったのである。

進路についての学習意欲は高いこと, しかも, 進路目標が定まり努力している生徒も, 目標がまだ定まらず不安定な状態にある生徒も, 同じように意欲をもっているということは重要なことであり, このことを大事にして進路指導をすすめていく必要があろう。

ウ 進路に関する学習経験等と進路を考慮することができる能力の発達との関係

生徒が進路について学習したいというつよい意欲をもっていることは前項で述べたとおりであるが, それでは自己理解, 職業理解, 人生設計の各領域における学習経験等は, 進路を考慮することができる能力の発達とどのような関係にあるものであろうか。これをつぎの順序で調べていきたい。

生徒の調査項目は自己理解に関するもの, 職業理解に関するもの, 人生設計に関するもの, その他に関するものと四つに分けられてある。前の3領域における学習経験等と進路を考慮することができる能力の発達との関係を調べるために, まず, 各領域における学習経験等の有無をもっとも的確に判定できると考えられる質問項目をつぎの表のようにえらんだ。また, 進路を考慮することができる能力が発達しているかどうかをもっとも的確に判定できると考えられる質問項目をその下の表のようにえらんだ。

<3領域における学習経験等の有無を判定するために選んだ質問およびその判定のし方>

領域	質問番号	内 容	経験が有と判定する回答	経験が無と判定する回答
自己理解	4(1)	あなたはいま, 自分にあうと思う職業をあげることができますか。	1. できる 記号 A	2. できない 記号 a
職業理解	6(2)	人間が生きていくうえで職業をもつという意味を説明できますか。	1. できる 2. だいたいできる 記号 B	3. すこしできる 4. できない 記号 b
人生設計	10(1)	あなたは自分の将来の進路について計画を立てたことがありますか。	1. ある 記号 C	2. ない 記号 c

<進路を考慮することができる能力が発達しているかどうかを判定するために選んだ質問およびその判定のし方>

領域	質問	内 容	能力が発達していると判定する回答	能力の発達が不十分であると判定する回答
その他	12	将来の進路のことについて, いまのあなたの気持ちにもっとも近いものを一つえらんでください。	2. 将来つきたい職業や進路がはっきりしているので, それを実現するために努力していきたい。	1, 3, 4, 5 内容については 27ページ参照

以上の準備のもとで, 各領域における学習経験等の有無と進路を考慮することができる能力の発達との関係を学年ごとに調べ, グラフに表した。つぎのページのグラフはその3年生のものである。

このグラフで, A b c, a B c, a b C, a b cの四つの回答区分について, 選択肢2をえらんだ生徒の割合を比較すれば, 進路を考慮することができる能力の発達におよぼすA, B, Cの効果のみることができよう。

*12 ここでは, 学習経験とその結果身についた知識・理解をあわせて学習経験等とよぶことにする。

<自己理解, 職業理解, 人生設計における学習経験等と進路を考えることができる能力の発達との関係>

〔生徒を対象とした調査〕 質問12

	%			
3年全体 (1,051人)	1 31.6	2 30.1	3 21.2	4 14.7
A B C (109)	1 11.0	2 65.1	3 21.1	4 1.8
A B c (35)	1 20.0	2 42.9	3 20.0	4 14.3
A b C (69)	1 5.8	2 59.4	3 29.0	4 1.4
a B C (148)	1 27.7	2 32.4	3 25.7	4 12.8
A b c (51)	1 27.5	2 41.2	3 25.5	4 5.9
a B c (163)	1 41.7	2 19.6	3 17.2	4 17.2
a b C (162)	1 32.7	2 28.4	3 23.5	4 14.2
a b c (309)	1 42.7	2 12.9	3 18.1	4 23.3

一読できるように, A, B, Cのそれぞれの効果がはっきり認められる。すなわち, 「自分にあると思う職業をあげることができる」「人間が生きていくうえで職業をもつという意味を説明できる」「将来の進路について計画を立てたことがある」という自己理解, 職業理解, 人生設計の各領域における学習経験等は, それぞれ進路を考えることができる能力を発達させる効果があるといえる。特に, すべての領域にわたって学習経験等のある区分A B Cでは, 選択肢2の回答者が65.1%に達し, これは3年生全体での30.1%の実に2倍強にあたっている。逆に, いずれの領域においても学習経験等のない区分a b cでは, 2の回答者が12.9%に激減する。

進路を考えることができる能力を発達させるためには, 各領域にわたる調和のとれた学習を経験させることがきわめて重要であるといえる。

これまでのことをとおしてみると, 生徒は進路のことについていろいろなことで悩んでいる。しかし悩みをもちながらも, 多くの生徒は, 進路がはっきりしている, していないにかかわらず, 自己理解, 職業理解, 人生設計のそれぞれについてかなりつよい学習意欲をもっていることがわかる。

また, 各領域における学習経験等はそれぞれ進路を考えることができる能力を発達させる効果があることが認められる。そして, その効果は, 学習経験等が各領域にわたり調和がとれている場合に, 特に著しい。

(6) 進路指導の取り組みについて

進路指導の取り組みの状況を, 進路指導主事の回答をとおしてみたい。

〔進路指導主事を対象とした調査〕

つぎの質問文を読んで, 用意された選択肢のなかから, あなたの学校にあてはまる番号をえらんでください。

1	あなたの学校では, 進路指導の全体計画がつくられていますか。 1. いる(75.4%) 2. いない(22.8%)
2	あなたの学校では, 進路指導の学年ごとの年間指導計画がつくられていますか。 1. いる(87.7%) 2. いない(10.5%)
3	あなたは, あなたの学校で, 進路指導のすすめ方について全教職員の共通理解ができていますか。 1. 思う(31.6%) 2. 思わない(12.3%) 3. どちらともいえない(54.4%)
4	あなたは, あなたの学校で, 進路指導について全教職員の協力体制ができていますか。 1. 思う(56.1%) 2. 思わない(5.3%) 3. どちらともいえない(36.8%)
5	あなたの学校の進路指導部(進路指導係など)には, 各学年から一人以上の担任がはいっていますか。 1. いる(52.6%) 2. いない(45.6%)
6	あなたは, あなたの学校の進路指導計画にある時間数で, 必要とする内容の指導ができますか。 1. 思う(24.6%) 2. 思わない(42.1%) 3. どちらともいえない(31.6%)
7	あなたは, あなたの学校で進路指導主事の役割分担がすっきりして仕事しやすいと思いますか。 1. 思う(38.6%) 2. 思わない(17.5%) 3. どちらともいえない(42.1%)
8	あなたの学校では, 進路指導が学校行事などの都合で行われないことはありませんか。 1. ひんぱんにある(1.8%) 2. ときどきある(42.1%) 3. めったにない(45.6%) 4. ない(8.8%)
9	あなたの学校では, 進路指導の進捗や内容について, 学年ごと調整をはかりながらすすめていますか。 1. いる(35.1%) 2. いない(63.2%)
10	あなたの学校では, 進路に関して親や保護者の意識を高めるため, 手だてを講じていますか。 1. いる(87.7%) 2. いない(10.5%)
11	あなたの学校では, 進路指導の効果的なすすめ方やすすめる上での問題点等について, 全教職員で話しあう機会がありますか。 1. ある(50.9%) 2. ない(47.4%)
12	あなたの学校では, 進路指導に関する情報や資料がたくさん用意され, それらがうまく活用されていますか。 1. いる(26.3%) 2. いない(71.9%)
13	あなたの学校では, 進路指導の評価を行っていますか。 1. いる(31.6%) 2. いない(66.7%)
14	あなたは, あなたの学校の生徒に, 3か年で将来の進路を自ら考え選択できる能力が育っていると思いますか。 1. 思う(5.3%) 2. 思わない(22.8%) 3. どちらともいえない(70.2%)

進路指導の全体計画, 年間指導計画はほとんどの学校が作成しており, また, 進路に関して保護者の意識を高める手だても講じているようである。しかし, この結果はまた進路指導をすすめていくうえで, 教師の共通理解をはかっていくこと, 諸資料の整備・活用, 学年間における指導内容の調整, 時間数の確保, 学校行事との関係, 進路指導の評価といったことに関して, 苦慮していることも多いということを示している。

つぎに, 学級指導における進路指導の内容およびその実施の状況を, 教師の回答をとおしてみたい。

〔教師（学級担任）を対象とした調査〕

あなたが昨年度担任をした学級の1年間の学級指導（学年全体への指導も含む）についておききます。
 つぎのNa1～17までの文章は、中学校3か年の学級指導における進路指導の内容です。それぞれについて、あなたが昨年度、学級指導の時間に実施した進路指導と内容がおおむね合致している場合、その右側の欄にすべて○をつけてください。

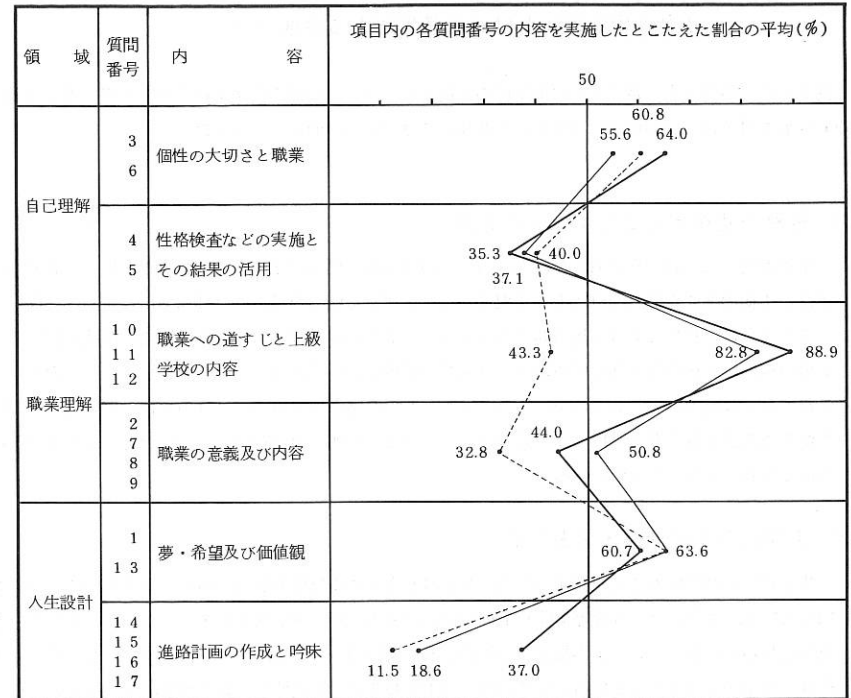
○をつけた学年ごとの割合（％）

Na	学級指導における進路指導の内容	1年担任	2年担任	3年担任
1	こんな職業につきたい、こんな仕事をしたいといったことについて、クラスで話し合いをさせたり、作文に書かせたりし、将来の夢や希望をほぐぐむ。	9 0.0	8 4.8	7 3.3
2	職業の意義について考えさせるとともに、人間はいつか職業につかなければならないという自覚をもたせる。	5 7.1	6 0.6	6 2.7
3	自分の性格や長所・短所、適性などについて、文章にまとめさせたり、クラスで話し合いをさせたりし、自己理解を深める。	7 8.6	7 4.2	6 9.3
4	性格検査や適性検査の実施	5 1.4	4 2.4	4 1.3
5	性格検査や適性検査の結果とその活用の仕方	2 8.6	3 1.8	2 9.3
6	個性の大切さを認識させるとともに、個性の伸長と個性にあった職業を選択しようとする態度を養う。	4 2.9	4 7.0	5 8.7
7	家族や先輩など身近な人の職業について調べさせ、職業に対する関心を高めるとともに、いろいろな職業の内容を理解させる。	3 7.1	4 3.9	4 5.3
8	職業と産業のちがいを理解させるとともに、日本標準分類による分類のし方とそれらの内容について知らせる。	1 0.0	3 6.4	1 3.3
9	職業を、仕事の内容・特色、それに対する適性、それにつくための資格・条件などの観点から整理させ、職業についての理解を深める。	2 7.1	6 2.1	5 4.7
10	中学校を卒業してから職業につくまでにはいろいろな道すじがあることを理解させる。	5 5.7	9 0.9	9 0.7
11	中学校卒業後のいろいろな上級学校について調べさせ、進路希望を達成するにはどのような道すじを選べばよいかを考えさせる。	3 4.3	7 4.2	8 1.3
12	高等学校にはいろいろな学科があることを理解させるとともに、そこではどんなことを勉強するのか、そしてどんな職業や上級学校につながっていくのかについて理解させる。	4 0.0	8 3.3	9 4.7
13	人間は何のために働き、何のために学ぶのかについて考えさせ、職業を選択するときに必要な価値観を育てる。	3 7.1	4 2.4	4 8.0
14	進路計画を作成する意義について考えさせるとともに、計画にもる項目・内容および計画の表し方等について工夫させ、進路計画を立てようとする意欲をもたせる。	1 5.7	1 9.7	4 0.0
15	進路計画を作成させる。	1 2.9	1 9.7	3 6.0
16	進路計画を自己の成長過程にあわせて吟味していくことが必要であることを理解させ、進路希望の実現に向かって努力しようとする態度を養う。	1 2.9	3 0.3	4 6.7
17	生徒が希望している上級学校や会社・事業所を訪問させたり、その人や先輩の話をかきかせることにより、進路計画を吟味させ、それを一層確かなものにさせる。	4.3	4.5	2 5.3

次ページのグラフは、この17の質問を自己理解、職業理解、人生設計の3領域に分け、さらに各領域を二つに分け、全部で六つに区分し、それぞれの項目における進路指導の実施の状況を学年ごとに調べたものである。グラフの数値は、たとえば一番上の項目では、質問番号3及び6の内容を実施したそれぞれの割合の平均をとったものである。

グラフでは、学級指導における進路指導において、自己理解、職業理解、人生設計の各領域の内容について指導を行ったとする割合が落ちこんでいる部分がみられ、これは進路指導を各領域にわたって十分に行ったとはいえないという学級担任の意識のあらわれとみることができる。特に、性格検査や適性検査を実施し、その結果を活用して自己理解を深めさせていく指導や進路計画の作成・吟味をとおして人生設計をさせていく指導が不足しているようすがうかがわれる。

<学級指導における進路指導の内容および実施の状況>



----- 1年担任
 ———— 2年担任
 ———— 3年担任

Ⅳ 研究のまとめとこれからの課題

1 研究のまとめ

——本県の中学校における進路に関する実態——

進路に関する調査を、県下60の中学校の生徒3,199名、教師(学級担任)212名、進路指導主事60名を対象に、質問紙法により行った結果、つぎのことが明らかになった。

(1) 進路を選択することができる能力

学年が進むにつれ、自己および職業についての理解と人生設計が深まっていることは一応認められるが、生徒の多くが進路を自ら考え選択することができる能力を身につけるまでには至っていない。

このことは、自分にあうと思う職業をあげることができない、将来つきたい職業や進路がはっきりしていない、上級学校へ進学する理由に自主性、積極性がみられないという生徒が、3年生の後半でそれぞれ半数前後みられることや、また、ほとんどの進路指導主事が、自分の学校の生徒に、中学校3か年で進路を自ら考え選択できる能力が育っているとは明言できない、という回答を示していることなどからよみとることができる。

(2) 進路に関する悩み・学習意欲

多くの生徒が成績のことや勉強のこと、がんばろうとする気持ちが見つからない意志の弱さについて悩んでいる。また、どんな高等学校や学科を選んだらよいか、中学校を卒業してからどのような生き方をしたらよいかについては半数近くの生徒が悩んでいる。しかし、悩みをもちながらも、多くの生徒は、進路がはっきりしている、していないにかかわらず、自己理解、職業理解、人生設計のそれぞれについてかなりつよい学習意欲をもっている。

(3) 進路に関する学習経験等と進路を考えることができる能力の発達との関係

自己理解、職業理解、人生設計の各領域における学習経験等はそれぞれ進路を考えることができる能力を発達させる効果のあることが認められる。そして、その効果は、学習経験等が各領域にわたり調和がとれている場合に、特に著しい。

(4) 学級指導における進路指導

生徒の進路を考えることができる能力は学年が進むにつれて発達しており、進路指導の成果が一応

あらわれている。しかし、学級指導における進路指導の各領域の内容について、教師が指導を行ったとする割合が落ちこんでいる部分がみられる。特に、性格検査や適性検査を実施し、その結果を活用して自己理解を深めさせていく指導や進路計画の作成・吟味をとおして人生設計をさせていく指導が不足しているのがみられる。

以上のことから、中学校3か年で、進路を自ら考え選択することができる能力が十分身につけているとはいいがたいが、多くの生徒には、進路がはっきりしている、していないにかかわらず、進路について学習したいというかなりつよい意欲がみられるので、各領域にわたる調和のとれた進路指導を行うことによって、その能力が生徒に十分身につくようになることが期待できる。

2 研究のこれからの課題

進路指導の問題点を整理し、進路を考えることができる能力の育成をめざして、進路指導の改善の方策について考察し、提言する。

参 考 文 献

- ・ 研究紀要 第1～15集 山形県中学校長会
- ・ 中学生活と進路 1～3 山形県中学校長会・日本進路指導協会 共編
- ・ これからの進路指導 日本進路指導協会

